

# クイーン倶楽部だより 7月号

2020年  
第209号

ERN 有限会社エコ・ライス新潟

新潟県長岡市協川新田町字前島970-100

TEL 0258(66)0070

FAX 0258(66)0447

URL <http://www.eco-rice.jp/>E-mail [office@eco-rice.jp](mailto:office@eco-rice.jp)

## 新潟県産コシヒカリ コロナに負けず世界へ!



### 6月は輸出ラッシュ!

世界各地でロックダウン解除が始まり、待望の日本食の店が再開。世界が日本食を待っています。

レストラン用

デパート用

その  
12

## Dr.Nobbyのセルフチェック健康

### 梅雨期の皮膚病

梅雨期は温度と湿度が高く、昆虫の幼虫が這い出し植物の葉も覆い茂る時期です。温度20度、湿度70%以上はカビ、小動物、昆虫が活発でかゆみや発疹の多い季節です。

皮膚病の症状は発赤とかゆみで、原因は梅雨で増殖し活発となった虫(小動物・昆虫)です。蚊・ぶよ・ダニ・ヒルなどの吸血の虫では積極的に噛んでくれますので、赤い丘疹(盛り上がった発疹)と中央に刺し口が生じます。非吸血の蜂・毛虫・むかで・くもなどがありますが、蜂は巣が攻撃されるとみると思い切って刺しますので吸血と同様に刺し口と発赤が出ます。その他の非吸血の虫は接触してかぶれる接触性皮膚炎で、発赤は盛り上がりず円形でない紅斑となります。ムカデ、クモなどがその例で軽度で済みます。最近問題になっているのが毒蛾の「チャドクガ」です。これは噛むのではなく毒針があり皮膚を這うと丘疹(盛り上がった発疹)が出て中央に刺し口があり、広範囲でひどくみえます。

予防は草地や森を歩くときは、長袖、長ズボン、帽子が原則です。短パン、半袖、帽子無きの勇気ある恰好をしないようにしてください。治療はステロイド軟膏か液ですが、ムヒSがおすすめです。蜂に刺され手首・足首以上に発疹が広がれば強いアレルギー持ちですのでお医者さんを受診してください。



中村 信也(なかもらのぶや)

医学博士。東京家政大学名誉教授。まほろば東京クリニック院長。  
「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者。